

ゆりかまめ yurikamome



写真提供：国土交通省北陸地方整備局敦賀港湾事務所

巻頭言 観光ボランティアガイドつるが 会長 増田 正樹

令和4年度は、コロナ禍の収束が見通せない中で始まりましたが、下期からは来敦される観光客が増加傾向となりました。現在はマスク着用が個人判断に委ねられるなど、多くの観光客の皆様は、安心して「私達が生れ育ち、いま暮らしている敦賀」の魅力を体感していただけることが実現できそうです。また、来春には、心待ちにしていた北陸新幹線敦賀開業を迎えます。当会も、終着駅を担う敦賀の一員として、東京駅で敦賀行の新幹線が発車する風景を想像しながら、「おもてなし」の準備を進めて参ります。

さて、当会の事業においても、長引いたコロナ禍は大きな変化をもたらしました。ガイド依頼件数の大幅減やガイド時リスク対策の負担増、またガイド活動に不可欠な研修の縮小等、例年と異なる時期が続きました。反面、「コロナ禍でも今できることを工夫して」の観点から、当会の前身団体が20年以上前に発行した「みなと・つるが・いまむかし」の改訂を2年間で実現、また新幹線開業に向けた新たな取組として、市民向けの出前講座の開催や新たなまち歩きコースの開発を実施するなど様々な活動を展開することができました。

来春、新幹線の雄姿を目の当たりし、敦賀に降り立つ多くのお客様をお迎えすることとなります。市民やお店・施設の皆様は、笑顔とやさしさで「こんにちは。いらっしやいませ。敦賀には沢山の見所があります。ゆっくりご覧ください。」としてお帰りの時には「いかがでしたか。気に入っていただけましたか。またお越しください。お待ちしております。」とお声がけをしたいものです。

観光ボランティアガイドつるがは、敦賀市の観光推進の一翼を担っています。新幹線開業に向けた大切な一年間を、29名の仲間とともに、様々な関連団体と連携しながら、私たちができることを積み重ねて参ります。

北陸新幹線敦賀開業に向けて



ごあいさつ 新入会員の紹介

鉄道資料館でトンネル群のビデオや写真を見て、幼いころ北陸線を蒸気機関車が引つ張る列車で通ったことを思い出しました。トンネルに入る前に煙が入らないように急いで窓を閉め、出ると開けるのを何回も繰り返し、いたことを思い出して、敦賀並びに周囲の鉄道遺産に興味を持ち、入会しました。



谷川 信吾

昨年10月より加入しました。1953年生まれで北海道室蘭市出身です。室蘭市は、敦賀市と同様に港町ですがここ23年間過ごし、その後就職・転勤で茨城県、東京都へ移り住み、1989年10月から敦賀市民になりました。敦賀に移り住んでから約33年、人生の半分近くをこの地で過ごしています。室蘭市は明治以降のみと歴史が浅いのですが、敦賀は大変歴史が深く、また名所旧跡なども多く、これまで不勉強でした。今回の加入を機会に知識を深め、少しでもお役に立てればと考えています。よろしくお願いたします。



山崎 修

九州佐賀県で生まれ長崎県佐世保市にうつり、高校は鹿児島、大学は東京で、卒業後、昭和52年4月に当時の動力炉・核燃料開発事業団に入社と同時に敦賀に赴任して以来、敦賀住まいです。敦賀半島の先にある「ふげん」と「もんじゅ」で原子炉の開発、建設、運転、廃止措置の仕事していました。市内にはあまりなじみはありませんでしたが、敦賀の歴史と風光明媚なところが好きです。口下手でガイドにはあまり向いていないとは思いますが、私や私の家族が好きな敦賀の魅力をお伝えできればと思います。



弟子丸 剛英

ガイドの依頼・問合せ

ガイドの依頼及び問合せは、敦賀観光協会にて受け付けています。申込み用紙は、下記のアドレス(敦賀観光案内サイト漫遊敦賀)からダウンロードし、必要事項を記入していただいた後、敦賀観光協会宛てにお送りください。

敦賀観光協会 TEL 0770-22-8167
FAX 0770-22-8197
<https://www.turuga.org>

ガイドメンバー募集中

観光ボランティアガイドつるがは、随時メンバーを募集しています。敦賀のことをもっと知りたい方、観光に来られた方に紹介したい方、人と接するのが好きな方、入会に制限はありません。下記の連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

ボランティアガイドつるが TEL 0770-21-0056
敦賀観光協会 TEL 0770-22-8167

敦賀は鉄道と港の町、古くから大陸との交易が盛んに行われ、歴史を重ねながら発展してきました。金ヶ崎緑地から港を眺めて見えるオレンジ色のさざなみ船や赤レンガ倉庫、ムゼウムを見ていると異国情緒ある港町を実感します。海が荒れたときには湾内に沢山の船が停泊し、天然の良港として懐の深い優しさを感じます。金ヶ崎の月見御殿から湾を見下ろすと衣掛の松のあった場所もあり歴史のロマンを感じますが、鞍山新港も広く見渡せます。新港の鞍山北地区は内航フェリーや貨物船など、鞍山南地区は外航のコンテナ船が、本港では、川崎・松栄地区は外航 RORO 船(釜山)が、金ヶ崎地区は内航 RORO 船が利用されています。鞍山地区では、日々、トレーラー出入りし、大きな船の出入りもあります。この3月には大型クルーズ船ウエステルダム号が寄港し、多くの乗客が敦賀市内を観光しました。往年の欧亜国際連絡列車が復活して東洋の波止場と唄われるような事はもうないでしょうか。

編集後記

敦賀のみどころ

⑥

敦賀港のあゆみ

敦賀港は、天然の良港として古くから日本と大陸を結ぶ交易の拠点となり、また、江戸中期以降は北前船によって栄え、現在、国内外との定期航路の整備も進められ、更に、大型クルーズ船も寄港するようになっていきました。今回は、その敦賀港の歩みをご紹介します。

敦賀港は、日本海における有数の天然の良港であり、古くから日本と大陸を結ぶ交易の拠点として、また、江戸中期以降は北前船による貿易の中継地として栄えてきました。その重要性を認識していた明治政府は、鉄道を敷設するに当たって敦賀と琵琶湖を経由して京都、神戸も鉄道で結ぶこととしました。東京と横浜間の最初の鉄道開通の10年後の1882年に敦賀と長浜とを鉄道で結び、敦賀港が大きく発展しました。

道と接続したので、一枚の切符で新橋からヨーロッパまで行けるようになり、他の港湾都市にはない広域的な役割を果たすようになります。第2次世界大戦後は、国際情勢の変化により敦賀港は不振を極めました。1951年の重要港湾・外国人出入国港の指定を契機に、鉱産品、林産品等の輸移入基地として発展します。



明治後期の敦賀港

阪神・中京地区と北海道を結ぶフェリー基地となりました。その後、1982年に敦賀新港が起工、1990年には外資コンテナ貨物の取扱が開始され、2002年には北海道苦小牧港との間にRORO船定期航路が就航、2003年、本港と新港の両地区を結ぶ臨港トンネルが整備されました。2010年、新港地区に鞠山南国際物流ターミナルが完成し、韓国釜山港と結ぶ国際RORO船定期航路が就航し、また、2019年には博多港との間にRORO船定期航路が就航するなど、流通港湾・物流拠点として重要な役割を担っています。



大正中期の敦賀港



鞠山北岸壁の大型クルーズ船 ウェステルダム号 (2023年3月)

港地区でも公共ふ頭や、再開発として港湾緑地の整備が進められています。また、港湾の整備に伴い、大型クルーズ船ダイヤモンドプリンセス号が2017年に初めて寄港し、その後、コロナ禍で中断となりましたが、本年3月、4年ぶりにウェステルダム号が寄港し、今後の展開も期待されます。

*RORO船とは、トラックやトレーラーが貨物を積載したまま自走で船に乗込み、運搬する貨物用の船舶。

ガイドつるが 定例会の開催

2月17日夕、南公民館にて、令和4年度ガイドつるが定例会を開催しました。定例会は、年度途中でそれまでの活動状況を報告し、会員からの意見も踏まえて今後の活動に反映する目的で開催しています。4年度に取組みを始めた

「つるがみどころカフェ」の開催状況の説明があり、カフェでの意見の活用や今後の計画などについて意見がありました。また、増田会長から取組みの振り返りがあり、5年度に向けて意見交換がなされました。会員からは人材の育成にかかる方法などの意見や、会員拡大に向けた様々な意見も出されました。今後、5年度計画を策定し、積極的に取り組んで参ります。



南公民館での定例会

中学校への冊子の寄贈

ガイドつるがは、昨年7月に「みなと・つるが・いまむかし」を発刊していますが、この度、地域の学びの学習などで活用いただければと考え、敦賀市内の各市立中学校に寄贈しました。

私どもが昨年改訂発刊した「みなと・つるが・いまむかし」を地域の学びの学習などで活用いただけるように、敦賀市内の5つの市立中学校に計155冊寄贈しました。

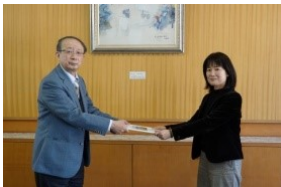
各クラス毎に1冊を常備し、またクラス全体で学習する時に2人で1冊を見ることが出来るように16冊、それぞれを各校毎に取りまとめました。

松陵中学校では生徒会の代表の生徒さん3名が受け取ってくれました。当方から「皆さんの学びに役立ててもらいたい」敦賀の魅力を発信してください」と手渡すと、「これを利用して学びを深め、観光客に敦賀の魅力を伝えていきたい」とお礼がありました。

角鹿中学校、栗野中学校、



松陵中学校 生徒会代表の生徒さんと増田会長の生徒さんと



写真左上から角鹿、栗野、氣比、東浦の各中学校での校長先生への寄贈の様子

出前講座と「つるがみどころカフェ」

観光ボランティアガイドつるがは、敦賀市内の9カ所の公民館で開催された「ふるさとの魅力発見講座」(日本遺産に認定された「海を越えた鉄道」)の講師を担当しました。また、4年度から敦賀のみどころについて、それぞれの地区の皆さんと意見交換する「つるがみどころカフェ」を開催しています。

公民館での出前講座

敦賀市内の9つの公民館で、市の社会教育委員の会、生涯学習課と連携し、ガイドつるがのメンバーが講師となって出前講座を行ってきました。全9回の開催で、300名を超える市民の方々に講座に参加いただきました。

「鉄道の町敦賀という言葉はよく聞くが、映像や話を通して一層敦賀の良さを感じることができ、市民がもっと知るべき」「敦賀の鉄道の歴史、日本遺産に認定された経緯の説明は、大変参考になった」「鉄道の歴史や現存するトンネル等、素晴らしい歴史が学べた」「近郊のトンネルや旧敦賀港駅舎等を見学したい。今後もこのような講座を開催していくべき」などのご意見をいただきました。



今後ともガイドつるがは、関係各所と連携し、このような出前形式の講座の実施に取り組んでまいります。つるがみどころカフェは、敦賀市内の観光スポットやテーマについて関連する地区の方々と意見交換を行って一層の活用策や課題の認識を共有することを目的としています。今回は日本百名月に認定された「氣比神宮に昇る月」と松尾芭蕉について意見交換を行いました。最初は敦賀市内で活動されている3名の方々と、二回目は神楽1丁目商店街の女将さんの会「べっぴん会」の皆さんと行いました。意見交換では、「松尾芭蕉が神楽通りを通ったという事や現存する鳥居をくぐった事などは初耳、また、奥の細道の杖置き地のと言われる敦賀についてもっとアピールすべき」等の意見や大垣など関連する地区との連携などにつ

つるがみどころカフェ

つるがみどころカフェは、敦賀市内の観光スポットやテーマについて関連する地区の方々と意見交換を行って一層の活用策や課題の認識を共有することを目的としています。今回は日本百名月に認定された「氣比神宮に昇る月」と松尾芭蕉について意見交換を行いました。最初は敦賀市内で活動されている3名の方々と、二回目は神楽1丁目商店街の女将さんの会「べっぴん会」の皆さんと行いました。意見交換では、「松尾芭蕉が神楽通りを通ったという事や現存する鳥居をくぐった事などは初耳、また、奥の細道の杖置き地のと言われる敦賀についてもっとアピールすべき」等の意見や大垣など関連する地区との連携などにつ



神楽一丁目カグループにて

て多くの意見がありました。このような意見等については、観光協会等とも情報共有を図りながら、より良い観光の展開となるように今後も継続して「つるがみどころカフェ」を実施してまいります。

まちゼミに参加して

3月5日、敦賀のお店で学ぶ楽しいミニ講座「まちゼミ」に参加しました。呉竹町「ケセラセラ」みやもと「さんのチーズ編」とても奥が深く、幅の広いチーズ世界を満喫しました。この「敦賀まちゼミ」は、2019年から今年で5回目の開催。次回も、どんな講座かな。皆さんも如何ですか。(倉谷)

